

## 研修報告書 No.5

所 属： 昭和大学臨床研修センター

研修先： 医療法人聖真会 渭南病院

私が1カ月の地域医療実習で最も驚いたことは「土佐清水市の高齢化率は50%である」ということだ。

私が研修させていただいた渭南病院は、高知県西端の幡多地域、土佐清水市に位置する医療機関である。土佐清水市は公共交通機関を利用した場合、東京から最も時間がかかる市の一つであり、東京からの移動には一日を要した。

渭南病院では、主に一般外来診療、救急外来診療、病棟管理、訪問診療、手術をさせていただいた。普段とは違う環境や、やり慣れていないこと、聞き慣れていない土佐弁など戸惑うことも多かったが、院長先生をはじめ多くの医療スタッフに助けられながら診療を行い、様々な経験をさせていただいた。

冒頭の言葉は、訪問診療に行く途中の車内で院長先生より聞いた言葉である。日本全体の高齢化率は約28%であり、世界トップクラスの超高齢社会と聞いていた。しかし、土佐清水市は2人に1人が高齢者という超高齢社会を優に超え、なんと表現してよいのか分からない高齢化率なのである。そのような社会環境であれば病院や診療所はもちろん、施設や高齢者住宅の需要が高くなり、それに伴って訪問診療や在宅医療も重要になってくる。渭南病院では看護・介護とも連携して訪問診療や在宅医療も行っており、医療者による患者・診療情報の共有ができており、とてもチーム医療が進んでいると感じた。在宅医療に関しては、一つの病院の医療者だけで対応していると、医療機関や医療スタッフの事情で対応できなくなってしまうことから、複数の病院からスタッフを出し、情報交換・共有をしながら対応していくなどの工夫もされていた。限られた医療資源や医療スタッフを効率よく利用していくことの重要さや、医療機関同士の連携の重要さを知ることができた。また院長先生は日本の高齢化率がさらに増加していくと考えられている中で、土佐清水市は日本の最先端をいっていて、土佐清水市の医療が今後の日本の医療の参考になるとおっしゃった。渭南病院をはじめとする今後の土佐清水市の医療には注目である。

また渭南病院は、市唯一の救急搬送受け入れ病院である。渭南病院で受け入れができない場合や高度な医療を必要とする場合は、宿毛市にある幡多地域の基幹病院の幡多けんみん病院や高知市の病院へ搬送されることとなる。しかし、渭南病院から幡多けんみん病院までは救急車で約1時間程度の時間を要する。搬送にも時間を要するが、公共交通機関も限られていることもあり、その後の通院などにも困難をきたす。つまり、いかに土佐清水市内で医療を完結できるかが中核病院として地域医療を行っていくうえで大切だと思った。また院長先生をはじめスタッフが、土佐清水市の急性期医療を継続していくという強い思いを感

じた。

1カ月の研修で思ったことは、やはり土佐清水市で医師が不足しているということである。渭南病院も様々な専門科がそろっているが、多くが非常勤講師であり、常勤でいるわけではない。私は大学病院で勤務していることから、最初はそのような状況に戸惑いを感じた。また医師の高齢化も進んできており、今後10年20年の経過で病院の存続などにも大きく影響してくると思った。さらには医師だけでなく、薬剤師・看護師などの医療スタッフの確保の厳しさも知ることができ、今後の課題であり、解決できなければいけないものであると感じた。

最後になりましたが、ご指導いただいた渭南病院の先生方、スタッフの方々に感謝申し上げます。また、このような大変貴重な経験を与えてくださった高知医療再生機構の皆様、ありがとうございました。